

山行報告

◆那岐山山行

日 時：3月21日（水、祝）

リーダー：今山 S L：河合

参加者：16人

◆霊峰<那岐山>縦走記 西口

地球温暖化現象という言葉聞いて久しい。今年の暖冬は異常だ。本来なら1月、2月は雪が積もっていてスキーシーズンなのに今年は雪が降らずスキー客を当て込んだ民宿、旅館などはキャンセルが相次ぎ経営が成り立たず赤字だそう。今回の山行も雪が積もっていてアイゼンが必要ではないかと思い<奈義町役場>に電話を入れた。結果は山頂付近に残雪があるが必要ないとのことであった。

快晴のもと、総勢16名、AM7:30高砂総合運動公園をマイクロバスで出発AM9:20目的地の岡山県奈義町菩提寺に到着。今回登る「那岐山」は岡山・鳥取県境に位置し氷ノ山後

山那岐山国定公園に属する霊峰。コースもA. B. C. D. の四コースがあり、今日はA～Dの縦走コースらしい。ストレッチをして身体をほぐした後、菩提寺の境内にある天然記念物の<大

那岐山行動記録

場所	着	発	摘要
高砂運動公園		7:30	
菩提寺 (P)	9:10	9:45	ストレッチ&大イチョウ見学
中間地点	10:20	10:25	5分休憩
林道分岐	11:10	11:15	5分休憩
那岐山頂上1201m	12:20	12:25	写真撮影
展望台三角点	12:35	13:15	昼食
滝山頂上	14:30	14:40	写真撮影
滝山神社	15:40		
稻荷神社駐車場	16:00	16:15	合流 (バス) ストレッチ
湯郷鷺温泉館	17:15	18:10	入浴
高砂運動公園	20:30		解散



イチョウ>を見学してよいよAコースの出発である。登山口から登り始めてヒノキ林を左右に見ながら登ること登ること。残雪があり、まだまだ続くのぼり、けっこう足にこたえる。五合目の標識近くになると最近降ったのか雪が残っている。また、一部が解けて雪解けのドロドロ道が続く、スパッツをすればよかったと思う。五合目だからもうすぐ頂上かと思いきや、今度はくだりになる。

雪が5～6cmは積もっているようだ。どこまで下るのかと思ったら林道まで降りてしまった。そこからは又のぼりが始まる、どれくらい歩いただろうやっとA・Bコースの分岐点に辿り着く。

ここからはササ原の稜線を歩きPM12:23那岐山最高点(1255m)に到着。晴れているにもかかわらず霞がかかっている様で周辺の景色がはっきりと見えないのは残念である。ここで記念撮影をしたあと頂上稜線をササを踏みながら歩き旧三角点につき昼食。ここからは広く360度の展望、風景が見渡せる場所だが相変わらずかすんでいた。



ここからがDコースと呼ばれているコースである。

ササ原を踏み分け雪はあまりないが雪解け道でズボンが泥だらけ1時間ほど歩いたのだろうか滝山展望台に辿り着く。ここからの見晴らしはすばらしい。360度の展望、北西には大山、北には氷ノ山、南には岡山県の山々が連なり遠く瀬戸大橋も見えるところ。ここで休憩後これから続く下りの始まりだ。下りは登りと違って全体重が足にかかりバランスを崩すとスベッテ怪我をする恐れがある。その点を注意しながら延々と続く下り坂約2時間ほどかかって滝神社に辿り着く。この滝は水量が多ければ見ごたえがあるのに残念。ここから階段をくだり砂川会長が車を回してくれている駐車場まで歩けば今日の行程は終了のはずだった。しかし私は体調の異変が忍び寄っているとは万が一にも思わなかった。石段をおりたところで両太股が張り歩行が困難になり足に力が入らなくなった。暫く休んでは数歩あるくことを繰り返す。原因がわからない。トレーニング不足か、血行が悪いのか、加齢による疲れか、この長い下りでは足が滑って「ヒッヤ」としたり、両足に力が入らずこのまま駄目かとも思った。



ハインリッヒの法則と言うのをご存知だろうか?『一つの重大事故の
かげには29の中事故と無傷の300
の<ヒヤリ><ハット>がある』
この法則は交通事故だけでなく、
登山、医療現場、企業においても
事故防止、危険予知として、<ヒ
ヤリ><ハット>の教訓を大事故
につながる芽と思って摘み取る必
要がある。今日の山行は小生にと
って貴重な体験山行であった。

投稿欄

霧氷の三峰山（1、235m）登山 吉村

三峰山の登山は3コースあります。

- ①不動滝コース；みつえ青少年旅行村～大タイ谷分岐～不動滝～避難小屋～三峰山
- ②登り尾コース；みつえ青少年旅行村～大タイ谷分岐～休憩小屋～避難小屋～三峰山
- ③新道コース；みつえ青少年旅行村～林道で出合～新道峠～みつえ青少年旅行村～三峰山

今回の三峰登山は2007年2月20日（火）で2回目の登山になります。前回は2年前2005年2月20日（日）で登山コースは②の登り尾コースで山頂へ、下山は③の新道コースの約10kmのコース

★交通機関（JR新快速&近鉄&バス利用）

姫路駅（6：44）加古川駅（6：54）大阪（7：44）～環状線 鶴橋駅～近鉄・宇治山田行～鶴橋駅（8：18）～榛原駅（9：03）～バス（9：05）～みつえ青少年旅行村（10：03）

前回の登山は足元も悪く避難小屋手前で雪も多く、アイゼンを装着し、山頂を目指しました。

三峰峠からは霧氷・樹氷のトンネルが続き、三峰山頂での雪山の美しさに歓声をあげました。

今回の登山もトイレ、準備運動を済ませて、はやる気持ちを抑えての登山開始（10：30）～三峰山登山口（10：35）～不動滝（11：05～11：10）。滝の水は暖冬のため凍っていませんでした。避難小屋で昼食と休憩（12：10～12：40）をする。今年の冬山は暖冬のため雪がなくスコップ一杯分程度の雪しかありませんでした。気持ちを代入替えて登山開始。

三峰峠（12：55）を左に折れて三峰山山頂着（13：10）。今回の山頂は視界も良く周囲の山々をよく見ることができました（前回は雪とスモッグのため視界はゼロでした）。13：40 山頂を後にして山頂から三重県側に少し下ったところにあるなだらかな平原状の八丁平まで約5～7分（13：50～14：00）で八丁平と三畝峠の中間ぐらいの所で、高見山が一番よく見えるカメラ・スポットがある。避難小屋（14：20）から左の方向登り尾コースへ。休憩小屋（14：45）～大タイ谷分岐～みつえ青少年旅行村着（15：25）。トイレを済ませ服装を整えてバスに乗り込み（15：45）、朝と逆のコースで帰路に着きました。

今回は残念ながら、樹氷、霧氷は見れなかったが又、ちがった思いでの登山でした。



追記

「霧氷とは気温が氷点下になり、霧の粒が風に吹き付けられて、樹木などに白く凍りついて、エビの尾のようになったり、花のようになったりして美しく見えるもの。

